

企業名： トプコン

レポート名： トプコン統合報告書 Topcon Report 2024

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか
理解できる。

『「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。』を経営理念に掲げ、人口増加・高齢化・労働力不足といった世界的課題に対して、「医・食・住」の分野で社会課題を解決するソリューションを提供し続けている。独自技術と発想力を融合させ、「医・食・住」の DX ソリューション提案型企業へ転換していくという将来像を持っている。

2032 年の長期ビジョンによると、売上高の持続的成長と収益性の向上・維持を狙いとして 2032 年に売上高 4000 億円の達成を目指している。そしてそのファーストステップに位置付けられる中期経営計画では、顧客志向の深化、基盤改革、DX 加速の 3 つの柱を掲げている。これらを通して“測る→つなぐ→診る/直す→制御する”という一連のソリューションモデルの高度化・統合を通じて、フィジカルとデジタルを融合したプラットフォームを目指している。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか
理解できる。

眼科領域では 光干渉断層計 (OCT) で世界トップクラスのシェア、精密農業では、米国・欧州での自動運転・制御システムを展開し、現地ニーズに応じた事業開発を行っており、世界的なニッチトップの地位を確立している。

この会社の競争優位性を成り立たせている要素として 3 つ挙げる。1 つ目は独自の「選択と集中」戦略である。市場の成長性と社会課題の大きさを見極めた上で、収益性の高い分野に経営資源を集中させている。医・食・住という 3 つのグローバルメガトレンド領域に特化し、その中でもさらに 眼科医療・スマートインフラ建設・精密農業 に注力している。2 つ目は高度なセンシング技術と IoT 統合力である。測量技術に加え、ICT・クラウド・AI 等のデジタル技術との統合を実現することで、単なる機器提供にとどまらず、「統合ソリューション (デジタルワークフローの構築)」を提供。3 つ目に、強固なアフターサービスと顧客密着型ビジネスの存在である。長年の現場支援を通じて得た顧客理解に基づく、課題解決型のソリューションを提供している他、ソフトウェア・データ分析・リモートメンテナンスなど、サービスモデルの深化も進んでいる。

尖ったハードウェアとソリューション

3. その競争優位性に持続性があるかどうか
持続性があると考えられる。

上の項目の競争優位性を成り立たせている 3 つの要因に基づいて考える。1 つ目の「選択と集中」戦略において注力されている医療・農業・インフラ 3 領域は将来的に社会課

題が深刻化し、需要が持続的に増大する見込みがある。また、2つ目の高度なセンシング技術と IoT 統合力によって、ハードからサービスまで一気通貫で提供できる体制を強化しており、「プラットフォームビジネスの進化」や「ソフトウェアサブスクリプションの収益モデル」化により、参入障壁と継続的収益の両立が期待される。最後に、3つ目の強固なアフターサービスと顧客密着型ビジネスでは、各地域での顧客課題を吸い上げる現地営業や技術支援体制を構築しており、ローカルニーズへの対応力が維持されている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上ができると思うか

できると思う。

経営ビジョンの実現に向けた人材戦略として、トプコニアンの育成をテーマにしており、具体的な3つの条件で定義している。(1)利益を創出する高度な専門性を持つ人材、(2)国境や文化の違いを超えて共通の価値観を持って行動する人材、(3)チームワークを大切にする人材、の3つを満たす人材育成を目指し、定期的な講義・研修などが行われている。

新入社員から管理職までそれぞれの階層で求められる能力を育成するための階層別教育、将来の経営幹部に必要な知識・スキルの習得を目指した選抜教育、コンプライアンス教育、技術・スキルの習得を目指した選抜教育、コンプライアンス教育、技術・技能の向上と伝承、自己啓発などの組織の成長戦略に応じた人材育成を行なっている。

また、社員が主体的に学び成長する機会を提供するため、人事基幹システムにeラーニングの配信機能を追加し、グループ内に存在する教育コンテンツを一堂に集め、グループ全体に配信するプラットフォームを構築した。次世代の人材発掘、育成においては360度評価など多面的に人材を捉え、サクセッションマネジメントに活かしていく体制としている。社員の自律的なキャリア構築を支援する取り組みとしてメンター制度や、一定の年齢でキャリアを振り返るキャリア研修を実施している。

5. 報告書の良かった点はどこか、どのような改善余地があるか

本報告書は戦略の一貫性が非常に優れていると考える。特に「健康な人生を、豊かな地球環境のもとで支える」という言葉が、トップメッセージから事業戦略、サステナビリティ目標まで貫かれているため、企業の目指す方向性が理解しやすい。また、中期経営戦略と定量 KPI の連動が明確であることで、実際の企業としての成長戦略も長期のものと細分化されたものがわかりやすく示されている。一方で、より深化した統合報告としては、財務情報についての前年比較・要因分析やリスク・資本効率の説明強化など余地があるのではないかと考える。